

豊富なオプションサービス

アドレスのテープおこしには、実は様々なオプションサービスがあります。いずれも「ねえアドレスさん、こんなことできない？」というお客様の声から生まれ、一つ一つのニーズに対応しながら、お客様と二人三脚で育ててきたサービスです。

テープおこしの「一歩先」までお手伝いできるアドレスです



資料挿入

パワーポイントを使った発表が増えてきた昨今、アドレスの中でも人気を博しているオプションが、「資料挿入」です。WORD形式のテープおこしデータに、使用されたスライドデータを画像形式(jpg, png等)で貼り込みます。テープおこしデータとPPT資料を相互に参照しなくてもよくなるので、使い勝手がよくなったと好評です。資料の挿入形式は、後から編集が容易な脚注方式(脚注機能を使い、ページ下部に画像を挿入)や、簡易な印刷物やPDF化にも対応できるテキストボックス方式(本文中の図番指示の近くに画像を挿入)があり、用途に合わせてお選びいただけます。文章をスッキリまとめる読み物仕様との組み合わせもおすすめてです。なお、版下作成等、より本格的な印刷物化をご希望の際は、DTIサービスにて承ります。

基本のテープおこし

アドレスのテープおこしには、下記のサービスが標準的に含まれています。
【発音者特定】----- 会議をはじめ、複数の方々が発言する音源では、音の方向や声質から発音者を同定します。同時通訳の場合にも、元の言語の音声を聞き合わせて特定しています。
【文章編集】----- 研究素材用の生おこしから、記録用の会話体(語尾ママ仕様)、ケバ取りをして読みやすくなった読み物仕様、文字数に合わせた要約文まで、用途に合わせて文章編集にも対応します。
【文体の変更】----- 通常の「ですます体」だけでなく、講演録や要約文では「である体」でのご提供も可能です。
【スライド番号挿入】---- パワーポイントを使用した講演等では、提示されているスライドの番号を挿入し、資料を参照しやすくしています。

要約・議事録

情報公開に対する社会的要請の高まりに対応するため、シンポジウムやパネルディスカッションの内容を5,000字や10,000字程度に短くまとめ、web記事として公開したいという需要が増えています。また、会議の場合にも、一言一句書き起こした長大な保存用の記録とは別に、決定事項や持ち越しの課題のみをまとめた一覧性の高い議事録が欲しいというニーズもあります。複数人でのディスカッション等の場合には、会話形式を崩さずまとめる直接話法と、第三者の視点からまとめる間接話法、二つのまとめ方をお選びいただけます。お得な全文テープおこしのセット割引もございますので、この機会にぜひご検討ください。

録音サービス

いかに経験豊富なスタッフでも、テープおこしに当たって困難を感じる事が二つあります。それは、「録音状態の良い音声の聞き取り」「参加人数の多い会議での発音者特定」です。逆に言えば、録音状態がクリアで、発言順が分かれば、テープおこしの品質はぐっと上がります。立会録音では、弊社のスタッフが現場に臨席し、録音機材のセッティングとモニタリング、発言順を含めた臨席筆記を行います。録音した音声は、データアップロードまたはCD-Rでお納めいたします。ご利用いただいたお客様からは、「録音のことを気にせず安心して会議ができた」「記録の精度が高くなり、後で聞き合わせる手間がなくなった」とのお声を頂いています。

英語テープおこし

国際会議や海外でのヒアリングなど、英語のテープおこしが必要なときも、アドレスにお任せください。日本語と同様、英語に関しても、全文テープおこしからサマリー作成、ミニッツライティングまで、幅広く対応しています。アドレスの強みは、英語のわかる日本人と日本語のわかるネイティブがチーム内でコミュニケーションよく制作に当たっていること。両言語をワンストップで受託することにより、段落等をそろえたり、小見出しをそろえたり、日本語と英語を相互に差し込んだり、使いやすいデータをご提供できます。また、オリジナル発言を参照して通訳発言を補完する原語参照もご依頼が増えています。

速報サービス

会議やシンポジウム等に弊社の制作部スタッフが臨席し、内容を的確かつ簡潔にまとめた記録を速報性をもってご提供するミニッツライティング。スピード・即時性が求められる時代の新たなサービスとして、アドレスの中でも急成長している分野です。

テープおこしが「翻訳」ならば、ミニッツは「同時通訳」のようなもの。物理的な入力スピードはもちろんのこと、発言のエッセンスを素早く理解し、文章としてアウトプットできるのは、日々のテープおこし業務での高い経験値があればこそ。日本語のみならず英語でのミニッツライティングも行っています。

ADDRESS VOICE

No.46 2018.2.14

【バレンタイン 猫も恋する雪消月号】

株式会社 アドレス 〒921-8147 金沢市大額 1-342-3 《TEL》076-298-8585 《URL》http://www.adrs.co.jp 《Email》office@adrs.co.jp
編集・発行人 大野優子

制作一筆箋 第5回 天の大掃除

制作部・大野

「雪消月」の異名を持つ2月ですが、今年は全国的に大雪で、消えるどころかどんどん降り積もっています。ここ金沢でも、朝、社員総出て雪かきしたはずの駐車場が、昼にはすっかり雪景色に戻ってしまい、初雪の頃には楽しんでた雪も、そろそろ飽きてきたというのが正直な気持ちです。

ところで、この雪という字は「雨」と「慧(ほうき)」を組み合わせたものなんでしょう。昔の人にとって雪は、天から降ってきて世の中を掃き清めてくれる、神聖なものだったのです。確かに子どもの頃、朝起きて窓の外が真っ白に雪を被っている様子を見ると、何か新しいことが始まりそうな、わくわくした気分になったものです。

冬というと、厚い氷雪の下で植物が春に向けて少しずつ身を大きくしていくイメージばかり抱いていましたが、それと同時に、持ち過ぎた色々をいったんリセットすることも、芽吹きに必要な準備なのかもしれません。大雪は豊年の兆しともいいます。この雪が消える頃には、身軽でしなやかな自分になって、新しいスタートが切れたらと思っています。

Bill's tweet #5 What about Japan surprised you?

制作部・スミス

One question that I am often asked is, "When you came to Japan, what surprised you?" Although the memory of my first time in Japan is fading, one thing that comes to mind is how almost no one holds doors open for others. Where I grew up in the US, it is considered rude not to look behind you when entering a building and hold the door open for someone, even if they are a complete stranger. It was quite shocking to have doors slammed in my face every day, but now I do not give it a passing thought.

Although such small differences between societies can be fun to talk about, I think it is more important to focus on the similarities of human experience that bind us together, and realize that we are not so different after all. :-)

ぷくぷく通信

代表取締役 中山雅美

先ほど、弊社の第1号のお客様になっていただいた会社の社長と、何年かぶりに言葉を交わしました。

電話越しの社長はちっとも変わらない。創業前に社長を訪ねて、篠突く雨の中を虎ノ門に向いたこと。そして足元を気にしながらもふと見上げた灰色の空と高いビルに整然と並ぶ四角い窓に、気圧されたこと。それ以降も、羽田に着いたら1番に訪問していたこと。社員たちも仲良くしていただき、担々麺のお店や絶品のシフォンケーキを教えていただいたこと。いろいろな切り口の仕事をいただいていたこと。それによって、エンドクライアントの期待値や市場の様子、コンペティターの具合、弊社の強みや弱みも見えてきたこと。マイルストーンを置くように育てていただいたこと。

もろもろに思いを巡らしました。

S社長が弊社の第1号のクライアントなんだと社員に話し始めたのですが、はて、2番はどこやったっけ?...と。そして、改めて1番じゃなきゃ駄目なんだという思いを強くしました。

「私も家族以外から最初にバレンタインのチョコもらった女の子のことはきっちり思い出せますよ。でも2番は誰やったかな?」とは弊社営業部の彼。

私もはるか前の人生初るとききバレンタインは、細部に至るまで鮮明に思い出せるのですが、そうだね、2番は...誰...。やはり2番じゃ駄目なんです。

3年ほど前、「日本一のテープおこしやさん」を合い言葉にしていました。何をやって1番となるのでしょうか。何が1番なら、私たち自らが納得できるのでしょうか。取引額、制作キャパ、スピードでしょうか。いえいえ、そこはやはり、お客様の満足感でしょう、それならベクトルが合うでしょうというのが、当時の社内における話し合いました。今はといえば、威勢のいい言葉をいったん引っ込め、定性的で、測定が難しい到達目標ではなく、立ち位置を確実に固めていくことに気持ちがなっていました。

でも、もう一度。私たちは「日本一のテープおこしやさん」でありたいです。

Happy Valentine's Day

昭和残響伝

Y このところの雪で、久しぶりにスコップを車に乗せて通勤しているけど、今年は寒冷前線の張り出し方がサンパチ*に似ているそうや。

K サンパチのころは学校から徒歩で10分もかからないところに住んでいて、馬の背のようになった道を通学しとった。行き違ふときは、一方が止まって踏み固まっていないうちに片足を踏み出して相手方が過ぎるのを待つのが礼儀やった。雪かきしてもう積み上げる所がなくなった小路は踏み固めとった。

Y うちは駅に近かったので、動かんようになった列車にいる人たちのために母親たちは炊き出しとったし、線路敷が高くなくてちょうどいいスロープができたので、子どもたちはそこで遊びをしようと。金沢・小松間では、国鉄が1週間ぐらい動かなかったと思う。

記録によると、国鉄の旅客列車が10日間で6488本、貨物列車が6147本運休したらしい。あの頃、貨物列車も同じくらいの本数が走っていたとすると、国内運輸のほとんどは国鉄が担っていたんやね。

K 東京オリンピック(昭和39年)の前年で、東海道新幹線も高速道路もまだ開通してない、ちょうど車社会到来の前夜やったね。生活道路に除雪車が入ることはなかったし、道路に融雪装置がついたのはその後だぶん経ってからやった。今は雪で物流が止まると野菜が高騰するけど、サンパチのころは冬野菜は備蓄しとったし、魚屋さんや豆腐屋さんもよく引き売りに来てくれていた。

Y 金沢が雪や雨の日って、東京は快晴というパターンが多いやろ。新幹線で近くなったとはいえ、お天気はかなり違うけど、先週は首都高も雪で閉鎖されたとか、東京は雪に弱いよね。

H 雪の日にちょうど東京出張していたけど、東京の人ってスコップなんか持っとらんよ。ちりとりで雪かきしていたわ。履き物も雪用なんてないから、よく転んでいる人もいたし。

K 時の大蔵大臣の田中角栄が初めて豪雪災害に災害救助法を適用したのがサンパチだった。死者も228名出ている。

Y 雪はそのうち解けるから大変さも忘れがちやけど、サンパチは、町の風景ががらっと変わったことや、雪の遊びを堪能したという体験も含めて忘れられないね。

制作部・宮本由美子、西健治

*サンパチ＝三八豪雪
北陸に住む55歳以上の人がかつて体験した最大の大雪、「昭和38年(1963年)1月豪雪」を指す。金沢市では、同年1月23日に51cm、22～27日に310cmの降雪、27日に史上最高の181cmの積雪を記録。

近頃、男性に贈るチョコレートの金額が低下している一方で、友チョコや自分チョコに使われる金額が上昇しているのだそう。私の姉はチョコレート会社に勤めていて、このシーズンが過ぎると社割で大量に仕入れたチョコレートを実家に送ってくれます。その中身も少し変化している気がして、以前はアソートの定番のアーモンドが載った粒チョコや、紅一点の真っ赤なハートの粒チョコだったのですが、最近では見た瞬間女性が喜びそうなカラフルなものが増えてます。私もその恩恵にあずかりに実家に帰ると、真っ先に目新しいものに手が伸びてしまうわけですが、毎年、それを手に取るたびに「そうきたか」と、姉の会社の思惑やチョコ市場の動きに意識を向けてみたりなんかしています。百貨店のチョコ売り場も見ているだけで楽しくて、定番コーナー、高級志向コーナー、面白コーナーとターゲット別に分かれています。特に面白コーナーのチョコは、人の目を引くための工夫が惜しげもなく施されていて、思わず笑ってしまいます。これは贈った相手の反応も見たいから人にあげたいな、自分用は高級志向コーナーだな、あ、今の私、分かりやすく戦略にはまっているな、まあいいか!と、予定していなかった分まで買ってしまふ始末です。まだまだ熱いバレンタイン市場。今年も数ある新作チョコの中から、贈る相手を思い浮かべつつ、自分チョコもしっかり吟味していきたいと思ひます!

制作部・本吉由佳

高校時代の思い出です。バレンタイン当日、私のクラスではお昼休みになると女子達は各々手作りのお菓子を持ち寄って友チョコの交換会を始めました。その日は雪が降りそうなほど寒い日でしたが(降っていたかも)、交換会が始まると男子はみんなお弁当を持って教室の外のベランダへ……。女子の盛り上がりに向けて追い出されるように気まずそうに出て行ってしまいました。ちょっと強めの女子が多いクラスで、おとなしい男子生徒が多いクラスでした。今思えば、男子にも分けてあげればよかったのですが、女子は女子だけで盛り上がり、ベランダの男子など全く眼中にない様子。元々女子の分しか用意していないからです。自分も欲しいと言える勇気のある男子も、男子にもあげるよと言える優しい女子もおらず。バレンタインになると、暖かい教室で盛り上がる女子と、真冬に寒そうにお弁当をベランダで食べる男子生徒の様子を思い出して、声をかけてあげればよかったかなあと今さら切ない気持ちになります。

営業部・松本瞳

季語としてのバレンタインデー
月に1回、俳句の会に出ている。学生時代のバイト先の喫茶店(文壇喫茶の趣きがある)で店主とお客さんが始めたもので、私も大学3年の頃から参加し、もう6～7年目といつの間にか長くなっていた。句会が仕事終わりならコーヒーを、休日ならワインを飲みながら、紙に並ぶ出席者の俳句を吟味し、気に入った二句を選び、投票する。いつも音を文字にして紙に乗せているが、この時間は、言葉のまた違う表情を見せてくれる。ところで、山口詔司「ほんご歳時記」(2015、PHP研究所)には、「昭和43(1968)年に出された大後美保『季語辞典』(東京堂出版)では、すでに「バレンタインの日」を春の季語として扱っている」と書かれている。日本でバレンタインイベントが始まったのは、メリーチョコレート会社が「バレンタインセール」を行った1958年からだそう。その後徐々に定着し、季語にもなったバレンタインデー。この50～60年、日本人々は、バレンタインデーが近づくとイベントにも、時には俳句にも甘く心を悩ませてきたということになる。

そこで私も一句。
バレンタイン 郵便バイクの轍漘く

制作部・清水美佑

今年も出ましたハートのチョコ付き ADDRESS VOICEバレンタイン号。こうして原稿をひねっている横で、きらきら光るハートを一粒一粒、心を込めて袋詰めの中核です。創立25周年を迎え、発行部数1800通以上を数えてもなお、手作り感満載の紙面に敢えてひと手間かけてチョコを同封し、ご担当者お一人ずつの顔を思い浮かべながら封をしていきます。

実はこれは、私たちの日々の仕事と、とても似た発想による、とても似たやり方です。ご発注いただく、まずは営業部や業務部から内容確認や関連資料のご請求など、時にはしつこいと思われてしまうのではないかと不安になるほど丁寧にご連絡させていただきます。これは、お届けするデータの精度向上に欠かせないステップです。それを受けて、制作部では仕上りのイメージを膨らませ、お預かりした資料を丹念に確認しつつ、データをまとめていきます。ここがきらきら光るチョコの部分でしょうか。データをメールでお届けする際には、少しでもご確認いただきやすいよう、不明部分についての申し送りや制作中に留意した点、工夫した点などを具体的に申し添えています。これがひと手間かけた袋詰め。そして最後に、ご担当される方が「やっぱりアドレスさんに頼んでよかった」とにっこりされる様子を思い浮かべながら、時には、ご期待に添えるかどうかハラハラしながら、送信ボタンをクリックします。つまりつまり、「データのお届け」のメールには、一通一通にアドレスの社員全員のハートが同封されているのです。どうぞお受け取りください!

制作部・石蔵麻里子

寄り道のすすめ
子どもの頃から、「寄り道」という行為に心がひかれます。今のように積雪が多いときには、通学路からちょっと冒険して、「しみしみばんばん」*になった田んぼの上をわざわざ歩いてみたり、いつもと違う「何か」をすることで新しい発見や感動があったものです。今年1月、「広辞苑」の第7版が刊行されました。改訂は10年ぶりだそう、言葉にこだわって仕事をしている我々にとって、ぜひ手元に置いておきたい一冊です。10年前、まだ若造だった私は改訂に気にも留めていませんでしたが、今回はとても興味が湧いています。こうした辞書にもまた、「寄り道」の醍醐味があると思ひます。最近ではネット全盛で、紙の辞書はだんだんと存在感が薄くなっていますが、ページをめくっているうちに気になる言葉を見つけたり、お目当ての単語の隣まで読んだりして、思わぬ言葉や表現との出会いがあるのが楽しく感じます。それがまた、次の何かを生み出すヒントになるかもしれません。普段仕事をする中で、スピードや効率性も大切ですが、こういう「寄り道」もたまにはいいかなと思ひながら、未購入の新「広辞苑」を書店の店頭で指をくわえながら眺める日々です。ちなみに、バレンタインデーは「広辞苑」でどう書かれているかというと、「この日に愛する人に贈り物をする。日本では1958年頃より流行し、女性から男性にチョコレートを贈る習慣がある」とのこと。実は、「チョコレートを贈る習慣がある」の記述が登場したのは第六版からだそう、意外と最近です。この辺の表現は、時代が進むにつれてまたさらに変わっていくことでしょう。

制作部・亀村将央

*積雪が凍って、靴が沈まずに上を歩ける状態を表す富山県の方言

初めて家族以外からチョコレートもらったのは、幼稚園児だった6歳のとき。よく一緒に遊んでいた女の子の1人が私と友人のところに来て、2人にチョコレートを渡して去って行ったこと(本命は私だったと思ひたい)。家に持ち帰って、親に知られるのが恥ずかしくて、部屋の戸を閉め切って1人でこっそり食べたこと。卒園式のときにホワイトデーのお返しを、それこそ目も合わせられず突きつけるように返したことははっきりと覚えています。

同時に7歳以降の25年、そんな甘酸っぱいエピソードはまるでなかったことも思い出して、何とも言えない気持ちになりました。現在2歳の息子には、父以上の人気者になるかはさておき、甘酸っぱい経験をこれからたくさんしてほしいなと思ひます。近年は家の食卓に置かれた妻・母・祖母からの三つが確定、あとは会社や当日お会いした方から頂けるかどうかバレンタインデーの楽しみです。

2月にお客様へご訪問の折には、カバンとお腹のスペースを空けてお伺ひいたしますので、何とぞよろしくお願ひします!

営業部・山田龍一

九州最南端への旅

チョコレートも大好きではあるが、浮世離れしている私が一番心を動かされるものは、川や海の水のきらめき、山と草木、空と雲、日と月の姿と色合い、そして温泉の熱。怒涛の正月休み最後は夜行バスや格安便を乗り継ぎ、生まれて初めて鹿児島に足を踏み入れ九州最南端の山を目指した。昼に鹿児島に着くと午後はまず手取り早く概要把握と市内観光バスに乗るも、ガイドが突如発する「〇△ドン」が理解できない。この辺に出没した恐竜の話か。「あれが完成間近のドラマ館」「恐竜のジオラマか」。それが今年の大河ドラマ「西郷(せご)どん」のことなのを正確に理解したのはやっとその夜、きびなごの刺身にご当地の香り高い焼酎を独特の薩摩弁に囲まれ楽しんでいるとき、という始末であった。

さて、幸い現在の寒波が押し寄せる前とはいえ、かなり寒い微妙な天候の合間を縫い、広大なキャベツ畑にそびえる完全円錐形の開聞岳に到着。標高は924mだが、ほとんど麓から登る。本州の山でありえないことは、常に右手に山、左手に刻々変わる海や半島を眼下に螺旋状に巻いて登ること、山頂まで南方独特の照葉樹林で覆われていること。そして頂上からは遙か南方へひたひたと続く広大な東シナ海と長崎鼻、佐多岬、残念ながら種子島、屋久島は望めなかったが、寒風の中、最高峰の岩に小一時間もたずんでしまった。と、ここで済めばひたすら楽しい思い出になったのだが、翌日、近くの知覧特攻平和会館や隊員たちの抛り所、富屋食堂跡を訪ね印象が一変した。17～24歳という若さの中にも一人一人が多様な人生を抱えつつ、多くの隊員が敬礼しながら開聞岳を越え、何度も振り返りながら沖縄方面に飛んでいったのだという。その後は若干うらぶれた指宿温泉の砂蒸し湯で韓国人バイト生に砂をかけてもらい、元氣一杯の韓国、台湾、中国の若者たちに混じり再び鹿児島市街を駆け巡りつつ、あまり知らなかった西郷どんや本当に水際で西洋に対峙した島津家の人々のこと、そして二度と間違わずお隣の国々とうしたら平和にやっていけるのか等、老いゆく中でも考えていかねばと心した。平和なバレンタインに感謝!

制作部・今村千鶴

